



□欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	(仮称)磐田市文化会館	BEE	1.1	BEEランク B+ ★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5		ふつう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.6	/5		ふつう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0	/5		よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9	/5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	
			よい 4点以上	ふつう 3点以上
			がんばろう 3点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		得点		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		3.4		
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①夏期はレベル3相当の室温26℃冬期はレベル5相当の室温22℃で計画 ②トプライトの採用 ③庇によるグレアの制御 ④品確法等級1相当 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内の適切な緑地づくり ⑥中・高木植栽や庇による日陰生成、通路や空地の通風を確保 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦外壁の高断熱化。 ⑧トプライトによる自然エネルギーの利用。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ⑩中央監視による設備の一元管理。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> 特になし ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭高効率空調、高寿命材料、節水型衛生器具による省エネルギー・省資源 ⑮中・高木植栽や庇による日陰生成、通路や空地の通風を確保 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 2.1.1 ⑫ 2.1.2 ⑫ 2.1.3 ⑫ 2.1.4 ⑫ 2.1.5 ⑫ 2.1.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		3.6	
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯建築基準法に定められた50%増の耐震性を確保 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		4.0
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす ⑲十分な天井高と開口を確保 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑ロビーの市民開放による地域貢献、見通しの良い防犯性配慮した外構 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		2.9		
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉓敷地内の適切な緑地づくり ㉒隣接する文化施設エリア・国道1号線からの良好な景観形成 ㉓中・高木植栽や庇による日陰生成、通路や空地の通風を確保 ■敷地外環境対策 (㉔温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ㉔中・高木植栽や庇による日陰生成、通路や空地の通風を確保 	Q-3 1 ⑳ 2 ㉒ 3 3.2 ㉓ LR-3 2 2.2 ㉔	⑳ 生物環境の保全と創出 ㉒ まちなみ景観への配慮 ㉓ 敷地内温熱環境の向上 ㉔ 温熱環境悪化の改善		

CASBEE[®]-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)磐田市文化会館	階数	地上3F
建設地	静岡県磐田市新屋字野中 677番	構造	RC造
用途地域	用途地域・防火地域の指定なし	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,815 時間/年(想定値)
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2019年9月30日
敷地面積	19,590 m ²	作成者	福地拓磨
建築面積	5,410 m ²	確認日	2019年9月30日
延床面積	7,416 m ²	確認者	福地拓磨



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.2

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>市民が主役の文化交流・活動の拠点であり、広場・軒下空間・交流ロビーを開放することで、催事・平時を問わず市民に積極的に活用される事を意図した地域貢献度の高い施設である。一方で、劇場用途の空間(ホール、リハーサル室、創造活動室)は、高い遮音性能を有する静謐な空間とし、室内環境に配慮している。</p> <p>※CASBEE静岡2016年版による評価結果とする</p>		<p>その他</p> <p>特になし</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>劇場用途として使用する室に関してはNC-20~30に設定し、開口部もT-2以上を確保するなど、静謐さ、遮音性能に配慮した音響計画としている。</p> <p>また、室内温度は夏期26℃、冬期22℃の設定温度で計画</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>木質化された暖かみのある内部環境への実現に向けて、内観パースによる内装の事前検証、避難安全検証による天然木の内部仕上利用、間接照明による演色性向上等、評価する取り組みを行っている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>交流ロビーや施設機能の提供による地域貢献に配慮している。また、周辺環境と調和した建物・外構計画とすることに加えて、隣接する国道1号線や文化施設の敷地に対しての良好な景観形成を図っている。設計プロセスにお</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>交流ロビー上部に設置したトップライトより自然光を取り入れ、ホール側壁面を照らすことで日中の交流ロビー照明削減に寄与している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>大便器、小便器などの衛生器具類は節水型器具を選定し、水資源の削減を図っている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地中央に建物を配置し、施設外周部の大屋根の軒高を抑えることで、敷地外への圧迫感を軽減し、1ランク上の日影規制基準に適合している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい